

「豊岡に暮らす価値」を
創造する

2020年度 豊岡市施政方針と予算(案)

令和2年第1回豊岡市議会定例会(2月28日～3月26日に開催)で、
中貝市長が表明した2020年度施政方針の一部を抜粋してお知らせします。
また、市議会に提案した2020年度当初予算(案)を解説します。
※施政方針の全文は市ホームページ「こちら市長室」に掲載しています。



[写真：2019年開催 第0回豊岡演劇祭
劇団青年団「東京ノート・インターナショナルバージョン」/城崎国際アートセンター]



施政方針

新年度も、地方創生・人口減少対策・に、市の未来に関わる最大の課題として、徹底して取り組んでまいります。

この100年間、豊岡市の人口は、第2次世界大戦終結直後の第1次ベビーブームと若干の例外的時期を除いて、一貫して減少を続けてきました。私たちが「地方創生」という名の下に闘っているのは、そのような固く、厳しい現実です。

最大の要因は、若年層の流出にあります。「豊岡に暮らす価値」は、残念ながら、若者、近年はとりわけ若い女性に選ばれてきませんでした。選ばれてきたのは「大都市、とり

わけ東京に暮らす価値」です。大きさや高さや速さを競う闘いでは、豊岡のような小さなまちが大都市に伍していくことは不可能です。別の次元の

高い価値を創り上げていく他はありません。その旗印が「小さな世界都市・Local & Global City」の実現です。

それは、地域に根差しつつ、絶えず世界を意識しながら、突き抜けた「豊岡に暮らす価値」を創造する挑戦です。

これまで、世界に飛び立つためのエンジンとして、コウノトリの野生復帰、コウノトリの野生復帰、コウノトリ育むお米の輸出、インバウンドの促進、深さをもった演劇のまちづくりの四つを挙げてきました。加えて、世界水

準の製品を生み出す市内企業を第5のエンジンに位置付けることもできます。

そこで問われているのは、ローカルな豊岡において世界に通用する文化的価値を創造できるかどうかです。

なお、ジェンダーギャップの問題は、その解消が進まない限り世界に飛び立つことはできない、という意味でも重要な課題と考えています。

これまでの、さまざまな人々のさまざまな努力によって、方向性と戦列は整いつつあります。今後さらに市内外に賛同者を増やし、連携しながら、人口減少対策に果敢に挑んでいきます。